

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・普通預金・定期預金、預り金、および法人税引当金等を含めている。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金	85,658	76,526
普通預金	9,341,273	8,796,384
定期預金	0	0
流動資産合計 (A)	9,426,931	8,872,910
預り金	3,850	10,720
法人税等引当金	400,000	400,000
流動負債合計 (B)	403,850	410,720
次期繰越収支差額 (A)－(B)	9,023,081	8,462,190

3. 会計方針の変更

会議費の取扱いについて

法人会会計では、これまで「会議費」は独立した大科目として「事業費」と「管理費」の間においていたが公益法人会計基準に基づき、今年度より原則的に「管理費」とし内容により区分して一部を「事業費」として計上しました。予算対比の増減の理由はこの記載方法の変更が要因です。